

図画工作科学習指導案

第2学年

I 題材 色水であそぼう ―造形遊び―

II 考察

1 題材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現（1）材料を基に造形遊びをする。

(2) 培われる主な資質・能力

- ・身近な人工の材料の形や色などに関心をもち、思いのままに造形的な活動に取り組もうとする態度
- ・身近な人工の材料の形や色などを基に、造形的な活動を思い付いたり、考えたりする力
- ・手や体全体を働かせながら材料を使い、並べ方、つなぎ方、積み方などを工夫する力

(3) 題材の価値

本題材は、水彩絵の具を使って色水をつくり、自分のつくった色水を大きな布に吹き付けたり、かけたりして遊びながら色や水彩絵の具とかがかわる学習である。その価値は以下のとおりである。

子どもたちは、ペットボトルを使って思い思いに色をつくり、それを大きな布に吹き付けたり、かけたりする活動に興味をもち、進んで色水づくりに取り組むことができるようになる。

子どもたちは、偶然できた色を楽しんだり、遊びながら意図的に色を混ぜたりしながら、繰り返し色水と関わり、自分なりの色に対するイメージをもつことができるようになる。また、自分のつくった色を大きな布に吹き付けたり、かけたりして遊ぶことを通して、友達のかつくった色との混ざり具合やにじみ具合から色に対してのイメージを広げることができるようになる。

子どもたちは、ペットボトルに水彩絵の具と水を入れて、よく振って色をつくることで、体全体で学習材とかがわり、色の濃淡や混色の面白さに気付くことができるようになる。また、自分のつくった色を大きな布に吹き付けたり、かけたりして遊ぶことを通して、混色や色の組合せ方を工夫することができるようになる。

子どもたちは、自分のつくった色に名前を付けたり、大きな布についた色を見合ったりすることで、混色や色の組合わせ、にじみ等の面白さを感じ取ることができるようになる。

水彩絵具は、2年生の子ども達にとってとても興味がある反面、実際に絵具を使って描く際には、水の量や筆の扱い、色の塗り方等により、色が滲んでしまったり、濁ってしまったりすることから難しさを感じる描画材である。一方で、子どもたちは、水彩絵具を洗う際に、筆洗にたまった水の色や、パレットを洗った際に自然に色が混ざることを楽しんでいる。そこで、本題材では、水彩絵具と体全体でかがわり、「色が濁る」、「色が滲む」という絵を描く際に難しさを感じるところをむしろ楽しみながら、その良さを感じることができるようにしたいと水彩絵具ではなく、色水として学習材を設定した。そ

の価値は、以下のとおりである。

教材の価値

色水は、絵具の量や混ぜた絵具の色によって様々なものが作れる。また、絵具の割合や水の量により、偶然できた色への驚きや感動を味わうことができる。そのため、子ども達にとって興味深い題材となる。

色水は、絵具の組み合わせや水の量により様々な表情を作り出すことができる。そのため、子ども達の持つ色のイメージに合わせて色をつくったり、色に対して自分なりのイメージを投影することができる。

色水は、ペットボトルに水と絵具を入れて振るだけで簡単につくることができる。そのため、自分のイメージに合わせて繰り返し試すことができる。

色水は、ペットボトルに入れて光を透過したり、布に吹き付けて色を付けたりすることで同じ色水でも感じ方が大きく変わる。そのため、その変化に体全体に関わりながら感じ取ることで、色水や色のもつ面白さや良さを味わうことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「えのぐのまほうつかい」での、水彩絵具を使って、にじみやぼかしの技法について知り、にじみやぼかしの表現を生かして工夫して表す学習へと発展していく。

(5) 共通事項との関連

※指導と評価の計画参照

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、1年「
」において、紙がもつ材料の特徴や質感などを体全体で味わいながら、思い付いた形をつくる学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は次のとおりである。

- ・子どもたちは、紙で様々なものをつくりながら身に付けたり持ったりして、つくる活動に楽しんで取り組み、思い付いたものを次々と変えながらつくることができている。このような子どもたちが、実際に着ることのできるコスチュームをつくる面白さを楽しみながら表現に取り組めるよう、作品発表会を行うことを伝え、その内容に合うような、なりきりコスチュームをつくることをパフォーマンス課題として設定する。
- ・子どもたちは、紙の感触を体全体で味わいながら面白い形や楽しい形を思い付くことができている。このような子どもたちが、グループで発表したい内容に合わせて繰り返し着たり脱いだりしながら、自分のつくりたいコスチュームの形を思い付いたり、色の組み合わせを考えたりできるよう、多様な色のポリ袋とビニルテープを学習材として設定する。
- ・子どもたちは、体全体の感覚を十分に働かせて、紙に潜ったり、体に巻き付けたりするなどして楽しくつくることができている。このような子どもたちが、自分のイメージに合わせて材料を選んだり組み合わせたりできるよう、協働的な学習の工夫として、グループで思いを共有して表現を見合ったり、表現について話し合ったりできる、発表したい内容に合わせたグループ構成や、役割分担などを設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画

※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 自分でつくった色水を布にかけて、色水で遊びながら、色に対しての自分なりのイメージを持つ。
- 2 準備 子どもたちのつくった色水 布（20m） ロープ ペットボトルのタッチメント（霧吹き、シャワーノズル、ノズルなど）

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
<p>1 前時を振り返り、本時の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、「太陽の色」をつくったよ。 ・今日は、布に太陽の色をつけよう。 <p>2 布に自分のつくった色水を吹き付けたり、かけたりして遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽みたいに丸く色をつけたいな。スプレーを使ってみよう。 ・誰かが、となりに黄色をつけたよ。オレンジ色になっちゃったな、どうしよう。 ・よく見ると、僕の太陽の色と黄色が少しずつ混ざってきれいだな。 ・誰かが、緑色をかけてきたよ。不思議な色になってきたな。 ・青っぽい色なら、紫ができるはずだな。 ・赤っぽい色が集まっているところがあるから、そこに吹き付けてみよう。 ・みんなの赤が集まったら太陽みたいになったよ。同じ赤でも少しずつ違うな。 ・シャワーに付け替えたら、どうなるのかな。もっと色々やってみよう。 <p>3 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度は、内側から色を吹き付けるのだな。僕の吹き付けたところは、外から見えていたのと少し違うな。虹みたいに見えるよ。友達の色と混ぜてみたいな 	<p>☆本時の活動に対しての自分なりのイメージを持つことができるよう、前時に、自分で名前を付けた自分のつくった色水を学習材として設定する。</p> <p>☆色を通して、友達とイメージを交流することができるよう、布を輪になるように張り、内と外に分けた活動の場を設定する。</p> <p>○自分のイメージに合わせて、吹き付ける方法を変えることができるように、スプレー、シャワーノズル、紙コップなどの道具の扱いを演示する。</p> <p>○自分の意図と反して、色が重なってしまった子には、色の混ざり具合やできた色の面白さに気づくことができるよう、混ざった色を見直すよう促す。</p> <p>○子どもたちが新たな活動に取り組むきっかけを持つことができるよう、色の混ざり具合や、できた色の面白さに気づいている子どもの発言を称賛する。</p> <p>○T2は、子どもたちと一緒に遊びながら子どもたちの活動を賞賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">色水を大きな布に吹き付けたり、かけたりするなどして、思い付いた色のイメージをつくっている。 <行動（3）></p> </div> <p>☆自分の活動を振り返り、新たな活動のイメージを持つことができるよう、内と外で活動していた場所を交換する時間を設定する。</p> <p>○活動そのものを振り返り、次時の活動の見通しを持てるよう、布の一部を取り上げて、活動しているときの気持ちを問いかける。</p>

題材	いろ水であそぼう -造形遊び-			【領域：A表現（1）】
目標	色水をつくり，つくった色水をスクリーンに吹き付けたり，かけたりして，色の濃淡や混色等の色彩の美しさや面白さを感じながら色水で描く。			
評価 規準	(1) 絵具を混ぜたり，水の量を変えたりするなどして色水づくりを楽しみながら，色水で遊ぶ活動に取り組もうとしている。 (2) 色水をつくったり，色水で遊んだりしながら，自分のつくりたい色を思い付いたり，色の吹きつけ方やかけ方を考えたりしている。 (3) 絵具の混ぜ方や水の量を変えたり，色の組み合わせ方を工夫したりしながら，色の濃淡や混色の仕方を工夫している。 (4) 色水で遊びながら，色の混ざり具合や組合せを試し，色彩の美しさや面白さに気付いている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法（観点）>
ふく ねら ま せ る	1	○色を混ぜ合わせて遊び、自分の気に入った色をつくる。	【「ふくらませる・ねる」過程での留意点】 ○繰り返し色水をつくることができるよう，500mlのペットボトルを1人につき4本用意する。 ○自分のつくった色水に対して，自分なりのイメージをもつことができるよう，つくった色水に自分なりの名前を付ける活動を設定する。	◇絵具や水の量を変えて繰り返し色水をつくっている。 <行動（1）>
	2	○自分のつくった色水を使って大きな布に色を付けて遊ぶ。（本時1/2）	【「あらわす」過程での留意点】 ☆本時の活動に対しての自分なりのイメージを持つことができるよう，前時に、自分で名前を付けた自分のつくった色水を学習材として設定する。 ☆色を通して、友達とイメージを交流することができるよう，布を輪になるように張り、内と外に分けた活動の場を設定する。 ☆自分の活動を振り返り，新たな活動のイメージを持つことができるよう，内と外で活動していた場所を交換する時間を設定する。	◇布に色水を吹き付けたり，かけたりして遊びながら，自分のイメージに合わせて色水で遊んでいる。 <行動（2）> ◇自分のイメージに合わせて，色の組合わせや重ね方を試している。 <行動（3）>
あ ・ じ ひ わ ろ う げ る	1	○活動を振り返り、大きな布の気に入った部分を切り取る。	【「あじわう・ひろげる」過程での留意点】 ○自分の活動を振り返ることができるように，VTRで記録した学習の様子を見て，そのときの気持ちを振り返る活動を設定する。	◇色で遊んでいるときの気持ちを振り返り，布の自分の気に入った部分を選んでいる。 <行動・発言（4）>
共通事項	色水をつくったり，大きな布に色水を吹きかけたり，色水をかけたりする活動を通して，形や色，組合せなどの感じを捉え，自分のイメージをもつ。			

